

仕合わせの

第220号

令和2年 7. 1
(毎月1日発行)

コロナから学ぶもの

住職 谷川寛俊

新型コロナウイルス感染実態を探る為、下水を活用した疫学調査を富山県・石川県でスタートされた事が、過日報道されていきました。下水の採取は各地で行われているが、検査を伴う本格調査は富山・石川が全国初とみられます。

感染者は潜伏期間中から更にウイルスが混じるとされておき、下水処理場の汚水のウイルス量から現在の感染状況や「第2波」を察知する分析手法を開発し早期感染防止に繋げていくというのです。今後有効なコロナ対策に期待が寄せられています。緊急事態宣言が解除され、又先月全国の移動制限も解除され、徐々に賑わいが戻っているようですが、ここで絶対に気を緩めないようお互いに注意を払い

たいものです。

さて、歴史を振り返れば、人類が生命の危機に直面したのは、これが最初ではありません。約百年前スペインで流行しパンデミックを引き起こしたスペイン風邪では、世界中で5億人が感染し、5千万人が死亡。

日本でも当時の総人口5千6百万人のうち、死者は50万人近くに上ったと言われるから、今回の比ではない。

毎日コロナ報道を見てみると、いつまで続くか予測出来ない状態に、一日も早いワクチンの開発が待たれます。

しかし人類は幾度も危機に遭遇しながら、その都度、危機を乗り越え、今日まで歩んできました。つまり現在の状況は必ず克服されることを歴史は私達に教えてくれています。

そのために大切なものは何んだと思いますか? 『感染症のウイルスは身体に忍び込むが、同時に心にも忍び込もうとするウ

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

イルスがあるというのです。つまり困難に耐え努力する心を蝕(むしば)むウイルスのことである』と、ある有名な学者が言っています。まさにその通りだと思えます。

ようするに、心の免疫力を高めなければならぬのです。その何よりの特効薬は、「よき言葉」・「よき教え」に触れる事である、とも言っておられます。

又、百二十二歳まで生きた人の長生きの秘訣は?と問われると二つあるというのです。

一つは「笑うこと」。二つは「退屈しないこと」と答えています。百二十二歳まで元気に生きた人は心身のウイルスに勝ってきた人であり、そういう人の言葉には力があります。こういう言葉に触れる事は、心の免疫力を高めます。

そして感謝すること、感動することも心の免疫力を高める要素と



信じます。仏教詩人である坂村真民さんの『仏のこころ』と題した詩があります。
『追い詰められ、初めて人間は本ものになる。だから本ものになるためには、絶体絶命の瀬戸際に立たされねばならぬ』と。
そして仏様は、その自覚を深めさせる為に、今日の試練を与えたのではないかと拝察していただきます。